



北海道バスケットボール協会  
指導者育成専門委員会

2007 / 3 / 6(木)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 19

## 「高校新人大会優勝校監督が考えるバスケットボール」

2月10日に旭川市で行われた北海道高等学校バスケットボール新人大会で優勝した男子、東海大4高校佐々木睦己監督、女子、山の手高校渡邊勝也監督のお二人に今回の大会を通して、日ごろのバスケットボールに対する姿勢や北海道のバスケットボールの課題などについて述べていただきました。

### 全道高校新人大会を終えて

東海大学付属第四高等学校 佐々木 睦己

この度、HBA指導者育成委員会より、先日行われました全道高校新人大会について述べるよう依頼をいただきました。男子全チームを観戦したわけでもなく、総評にはなりません。今現在私が感じていることを述べさせていただきます。

全道大会を観る中、各チームには必ず外角を中心として得点力の高い選手がおり、勝敗を左右する重要な要因となっていると感じました。全国の指導者の方々に「北海道は、1対1に優れている。特にガードはシュート力がある。」と言われます。これまでの諸先輩のご指導により、北海道高校界の特徴が確立されたことは言うまでもありません。

しかし、全道大会を通じて感じたことは、自らの意思（優位性）を持ってプレーしているか。1対1を仕掛けているが相手選手のペースでプレーを終わらせているか。そこに少々差を感じました。対戦する上で攻守の駆け引きが当然繰り返されます。自らの意思（優位性）を持ってプレーし、チームプレーに展開し勝利をつかみたいものです。

意図通りの結果が出ていない時に顕著に表れるプレーとして「ストップ動作」があると思います。ゲームを左右するイージーミスに「ストップ動作」が大きなウエイトを占めていると言っても過言ではないと思います。私自身国際試合の中で、苦い思いをしたもの自らの意思（優位性）＝「ストップ動作」が欠けた時でした。的確な判断をして、勝利を収める為に欠かすことの出来ない最も重要なプレーだと思えます。

また、全国大会で感じることのひとつに、セカンドプレーの重要性があります。シュートの確率では差がなくても、リバンド・ルーズボールプレーに差があることを実感します。全国チームとの身長差があることはまぎれもない事実ですが、それ以上にフィジカルコンタクトで優位性を保てない現実があります。全道大会においても、フィジカルコンタクトに勝るチームが勝利を収め、その重要性は指導者であれば誰もが認識することです。

北海道の高校生は、将来的に内角でリングに背を向けてプレーし続けることが出来る選手はいません。上記の2点を踏まえ、選手の可能性を引き出し、チームには「何がしたい

のか」、そして選手には「何をさせたいのか」を念頭に、指導に携わっていきたいと考えています。

## 北海道高等学校新人大会にて

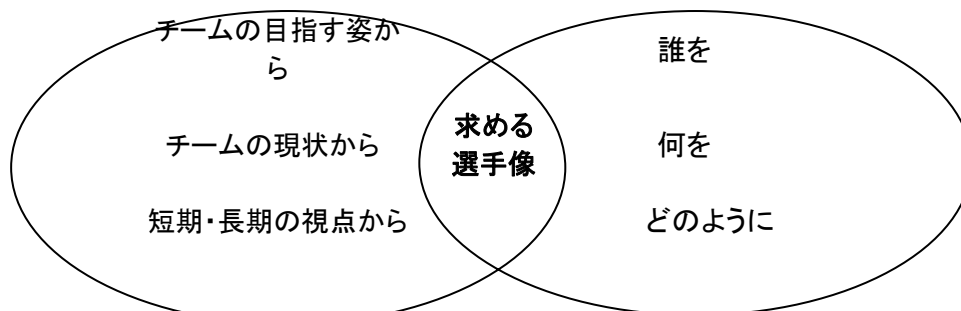
札幌山の手高等学校 渡邊勝也

〈女子〉

今大会に出場し、本校チームおよび対戦・観戦させていただいたチームが共通して追及しているテーマと感じたものが2つありました。

- ① 駆け引きのあるバスケットボール（考える力を鍛える・状況判断を磨く）
- ② 勝負強く、戦える武器を持つ（コンタクトスキルの向上とその状況下での駆け引き）

そのために指導者は、偶然のバスケットボール（速いから、遅いから、大きいから、小さいから、強いから、弱いから、上手いから、下手だから・・・）に流されず、必然性を追い求める姿勢とそれに伴う緻密な指導が重要だと感じています。本校の上島コーチや全国で活躍されている指導者の方々が特に強調して実践している部分でもあります。



それぞれの指導者が選手達の成長を願い、**求める選手像**を明確にし、粘り強く選手たちを鍛え上げていくことで今後の展望が開けることと思います。本質をとらえた率直で見逃さない指導が重要だと考えています。

HBA（北海道バスケットボール協会）指導者育成専門委員会